

2021 年度 特待入試

第 1 回

国 語

[注意事項]

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 ^{したじ}下敷き，シャープペンシルおよび電算機付きの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は，^{えんぴつ}鉛筆で濃くはっきりと書くようにして下さい。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず，手を触れないで下さい。
- 6 考査中はよそ見をせず，きちんとした態度で行って下さい。
- 7 何か物を落としたら，^{だま}黙って手をあげて下さい。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為^{こうい}をしないで下さい。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九六一年十二月三十一日。大野さんは、千葉県船橋市で誕生しました。

「人情に厚く、困った人を放っておけない人に育ってほしい」という願いをこめて、篤志^{あつし}と命名されました。篤^{とく}という漢字には、「まじめで人に対して手厚い」、「人に親切」という意味があるからです。

子どものころは、あまり体がじょうぶではなく、プールに入ると必ず翌日熱を出しました。そんなときは、テレビを観てやりすごしました。

テレビでは、はるか遠くアフリカに住む人びとや、動物たちに関する番組が多く放送されていました。おそらく当時は行ったことのない人がほとんどで、視聴者からの要望も多かったからでしょう。

大野さんはそんな番組を観ながら、心の片隅に「いつか自分もアフリカに行きたい」という小さな希望を芽生えさせました。【ア】

また大野さんには、小さなころから後の人生にも影響するような個性がありました。

最初にその個性が現れたのは、五歳^{ごさい}ころ。好奇心旺盛^{こうきしんおうせい}で手先が器用だった大野さんは、特に機械関係が好きで、こわれた時計をひとりできれいに分解してしまいました。

なんでも見てみたい、のぞいてみたいという衝動^{しょうどう}をおさえられなかったのです。

その後も壁のコンセントに興味をもっては、ハサミを差しこみショートさせるなど、周りをハラハラさせました。

こんなふう到大野さんは、^①外の世界への探求心をもちながらも、家にいて機械いじりを好む、内気な子どもでした。そんなかれを心配した両親は、空手を習うことをすすめました。

【B】、心身ともにめきめきとじょうぶになり、^②外の世界にもおくせず出ていくようになったのです。

また、中学校三年生のときに担任の先生にすすめられた本『竜馬^{りゅうま}がゆく』（司馬遼太郎著／文藝春秋^{ぶんげいしゅんしゅう}）がきっかけで、幕末の英雄・坂本龍馬の生きざまに、強いあこがれを抱くようになりました。時代を変えたヒーローでありながら、子どものころは泣き虫だったという龍馬に共感したのです。

明治維新（江戸幕府への倒幕運動から、明治時代初期までに行われた改革）で活躍しながらも、私欲にとらわれずに「世界の国々にとの貿易」の夢へと向かっていく姿や、不可能と思えるようなことを、独創的な発想力とすさまじい行動力で突破していく姿に魅了^{みりょう}されました。【イ】

高校生時代は、千葉駅でアイスクリームを売るアルバイトをし、さらに、バイクの免許を取って親友と遠出するようにもなりました。就職してからは仕事も順調で、未来は永遠にかがやいているように思えました。

それが、突然の交通事故。見ず知らずの人の不注意により、これまで積みかさねてきた日々が、いっしゅんにしてうばわれてしまったのです。

大野さんはすっかり元気をなくし、打ちひしがれました。もともとよく話す方ではないのに、なおいっそう無口になったのです。

（あの事故さえなければ、自分の人生はすべてうまくいっていたはずだ）

現場監督の仕事は、やめるしかありませんでした。毎日重い足取りで整形外科へ通い、リハビリを受けました。

体は、少しずつ回復に向かいました。「ウー」そうやってなやんでいるうちに、ある考えがうかびました。

（起きてしまったことばかり考えていても、しかたない。これを機会に、今までやりたかったけれど、できなかったことをやってみるか）

今の状況が、自分にあたえられた、1 載一週のチャンスに思えてきたのです。

「なにか、人の役に立つことがしたいなあ」

とはいっても、具体的になにか見つかったわけではありません。どうやって、それを見つければいいのかもわかりません。

C それは、突然やってきました。

事故から一年半以上過ぎた、一九八六年六月のある晩。テレビで、アフリカで井戸を掘る職人のドキュメンタリー番組が放送されていました。

日本人の井戸掘り職人が、上総掘りという掘り方で、熱心に井戸を掘っています。

その決して若くはない職人が掘った井戸から、きれいな水がわきでました。画面の向こうのアフリカの人たちは、泥水ではない、きれいな水を見て、涙を流さんばかりに喜んでいました。

その職人は、他の上総掘り職人がつぎつぎと廃業してしまう中、強い信念で上総掘り井戸を掘りつづけた、近藤晴次という人でした。

「アフリカで上総掘りだって!？」

大野さんは、画面にくぎづけになりました。

実は大野さんの父方の祖父も、上総掘りの職人だったと聞いていたのです。

強烈に興味をひかれました。

「自分もあんなことがしたい!」と、思いがこみあげました。

（2）。それこそが、篤志という名にふさわしいのではないだろうか。両親もきっと、そんな思いをこめて、この名前をつけてくれたのではないか。祖父が上総掘りの職人だったことも、なにかの運命にちがいない）

子どものころに抱いていた「アフリカへ行ってみたい」という思いも、一気によみがえりました。（中略）

そんな思いがふくれあがっていたある日、ドキュメンタリー番組を観てからちょうど二週間後のことです。

購読していた新聞で、大野さんはある募集記事を発見しました。

日本のNGO「難民を助ける会」が、アフリカ南部のザンビア共和国で、上総掘りの井戸を掘るボランティアを募集しているではありませんか！

大野さんはそのタイミングのよさに、思わず 3 を疑いました。

D おどろいたことに、テレビで観たあの上総掘りの職人、近藤晴次さんが、掘り方を指導するというのです。募集人員は、十人。試験があると書いてあります。

さっそく問い合わせると、「上総塾」という講習会で、掘り方や英語、アフリカの現状など、関連するすべてのことを、一から教えてくれるそうです。

【エ】

「これだ、これしかない！絶対に試験に合格するぞ！」

亡くなった祖父が、自分を導いてくれたような気がしました。

たけたにちほみ『わきだせ！いのちの水』より

問一 — A D に最も適する語を次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア すると イ さらに ウ つまり エ ところが

問二 — 1 3 に最も適する漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問三 本文中には、次の文が抜けています。本文中の【ア】～【エ】のどこに入りますか、最も適当なものを記号で答えなさい。

そうになると、落ちこんでいるだけの自分が、いやになってきたのです。

問四 — 部①「外の世界への探求心」とありますが、具体的には、どのような気持ちのことですか。本文中の表現を用いながら、簡潔にまとめなさい。

問五 — 部②「おくせず」とありますが、どのような意味の表現でしょうか、最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あまり深く考える前に、自然に体が動いて

イ 気おくれしたり、おそれたりすることなく

ウ 他の人と比べても、少しも遅れることなく

エ 深いところまでは進めないが、表面的には

問六 — 部③「あんなこと」とありますが、どこで、どのような目的で、何をすることを指していますか。「それこそが、篤志という名にふさわしいのではないだろうか」とあることを手がかりにしなが、 2 にあてはまるように、簡潔にまとめなさい。

二次の文章【その1】と【その2】を読んで、後の問いに答えなさい。

【その1】

最近、将棋や囲碁などの複雑な知能ゲームで、人工知能（AI）が次々とトップのプロ棋士たちを打ち破ったことが話題となった。このAIの棋風について、将棋の羽生善治十九世名人が面白いことを言っている。それは「AIには恐怖心がない」ということだ。人間同士の対局では、先を完全には読み通せない不安と、その中で自分の読みをどこまで信じられるかという心の強さ、そういった恐怖心との闘いがしばしばドラマを生む。しかし、AIの指す将棋には、A 前だが① そういった人の持つ心理の綾のようなものがない。詰みがある局面では瞬時に指して詰ましにくるし、こちらの強手にも動揺することなく淡々と指してくる。人間は詰みがあると思っても間違いないか何度も確認してしまうし、自分の陣形が乱れることや、王様が露出することなどには、どこことなく不安を覚えて躊躇する傾向があるが、AIはどんな怖い手でも平気である。

なぜ、AIの指し手には恐怖心が感じられないのだろうか？その根底には、AIにとっては「自分が見えることが世界のすべて」ということがあるように思う。AIは「自分が想定していない危険」や「自分が間違いを犯す」といった、自分に見えないリスクがあることを考慮に入れるシステムになっていない。また、局面によっては実際すべての可能性をB つぶしに読んでいる。そういった、言うならば「闇」の存在を知ることのないAIの特性が、恐怖心のない指し手につながっているのではないかと思う。

一方、人は「闇」の存在を知っている。自分に見えない「闇」の中に、時にリスクがひそんでいることを知っているのだ。王様が安全C にいれば、多少の読み落としがあっても勝負は先が長いが、王様が露出した局面で、自分に見えていない相手の好手があれば、ゲームセットである。だから王様が露出することに恐怖心が伴う。そして過去に読み落としで負けたことがあれば、「またやるのではないか」という、D から来る恐怖もそれに上乗せされる。

▼生物はその長い進化の歴史の中で、生き残る確率をより高めるために、見えないリスク、つまり潜在的な危険を避ける習性を身に付けてきたのだろう。それは恐らく生物のDNAに深く刻まれており、人の恐怖心の根源となっているように思う。人は見えない「闇」の中にリスクを見てしまうのだ。そして、本当は何も見えない「闇」に、何を見るかは個人のE や経験に大きく依存している。▲

この「闇」の中にリスクを見てしまうこと、そしてそれが個人の感性によって大きく違うこと自体は、生物の特性として優れたものである。たとえば森の中で新しいキノコを見つけたとしよう。それを食べる人がいなければ、新しい食材は集団にもたらされないし、みんなが食べてしまえば集団ごと全滅してしまうかもしれない。だから、人類には勇敢な遺伝子も必要なら、リスクに敏感なビビリ遺伝子も必要なのである。ただ、人間社会において、それが少し厄介な問題を引き起こすのは、何かの社会合意を形成しようとすれば、こういった多様な感性を持つ人々の間にある、不確定なリスクに対する異なった感性をすり合わせる必要性がでることだ。

一般的に言えば、用心に越したことはない。リスクは少なければ少ないほど良いし、真面目な人が真面目に言っていることに、「それはめんどろだから、いい加減でよくないですか？」とは、なかなか言い出しにくい。しかも、言えば、大体怒られる。つまりリスク対策は候補のうちの最大値が採用されることになってしま

いがちである。しかし、必要以上のリスク対策は、将棋のようなゲームでは間違いなく弱点となるし、実社会でもしばしば問題となる。それはリスク対策には相応^④のコストがかかるからだ。

【その2】

中屋敷均『科学と非科学 その正体を探る』より

二〇二〇年二月現在のデータでは、患者^{かんじや}の約八割は軽症^{けいしやう}だが、五%程度が呼吸不全などで重体となっているという。

もし、「熱があっても休めないあなた」が、解熱剤^{げねつざい}を飲んで活動し、ウイルスを拡散^{かくさん}させてしまうと、とりわけ、重症化しやすい高齢者や基礎疾患^{きそしつかん}のある人の命を、結果的に危険に晒^{さら}すことになる。

そもそも体調が悪いのに無理して働く人、働かせる人が、この国には多すぎる。現実には、大抵^{たいてい}の仕事は「代役」でもこなせる。だからこそ、世の中はなんとか回っている。

同時に、休んでも不利益にならないよう、労働者を守るルールを徹底^{てつてい}させることも大切だ。これを契機^{けいき}に、立場の弱い者への理不尽な要求や、陰湿^{いんしつ}な同調圧力を、この社会から無くそうではないか。テレワークにも注目が集まっているが、どんどん活用すべきだ。「禍^{わざわい}を転じて福」となればよいのだが。

難局を、理性的に乗り切りたい。

神里達博『リスクの正体 不安の時代を生き抜くために』より

- * 将棋や囲碁……二人で盤面に駒を並べて競うゲーム。将棋は相手の王将という駒を動けない状態にすると勝ちとなる。
- * 棋風……将棋や囲碁の打ち方にあらわれる人の個性。
- * 詰み……将棋で、王将の逃げ場がなくなり、勝負が決すること。
- * 強手……将棋や囲碁で、相手に激しい戦いをしかける作戦のこと。
- * リスク……危険。損害を受ける可能性。
- * 好手……将棋や囲碁で、理屈に合ったよい作戦のこと。
- * コスト……費用。値段。
- * 基礎疾患……症状が激しくはないが長引く病気のこと。がん・心臓疾患・呼吸器疾患・糖尿病などをさす。
- * 同調圧力……特定の集団において、多数の意見に逆らわずに従わせようと働く力のこと。
- * テレワーク……情報通信技術を使って、自宅などの会社以外の場所で仕事すること。

問一 次に示した、A、C をふくむ言い回しの意味の説明を参考にして、空らんに入れるのに最も適する言葉をそれぞれひらがな三字で答えなさい。

A 道理の上でそうあるべきこと。普通であること。

B 物事をすべてにわたって処理していくこと。

C 災厄さいやくなどの危険のない場所。

問二 — 部①「そういった人の持つ心理の綾のようなもの」とはどのようなものか、説明しなさい。

問三 — 部②「闇」の存在を知ることのないAI」の原因となる特性としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A AIは、生きていないので、人間のような恐怖心を感じないから。

I AIは、自分にも間違いを犯す可能性があるとは考えないから。

ウ AIは、自分には見えないリスクがあることを考慮しないから。

E AIは、局面によってすべての可能性について検討しているから。

問四 D・E に最も適する二字の語を【その1】からそれぞれ抜き出しなさい。

問五 ▼▲で示された第四の形式段落について、引用部分の文章構成において果たしている役割として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A 人間の特性について、生き残る確率を高めるものと評価して、地球全体のリスク対策の方法を論じている。

I 人間の特性について、生物の長い歴史の中に意義付けることで、AIに対する優位性へと結びつけている。

ウ 人間の特性について、存在しないリスクまで感知してしまうもので克服すべきという主張に展開している。

E 人間の特性について、他の生物や進化の歴史によって正当性を裏付けて、考察を深めていこうとしている。

問六 — 部③「リスク対策は候補のうちの最大値が採用される」とあるが、それとは反対に最大値を採用しているとはいえない態度について、【その2】を参考にして、どのようなものか具体的に説明しなさい。

問七 — 部④「リスク対策には相応のコストがかかる」について、【その2】から具体的なコストの例を九字で抜き出しなさい。

三 次のことわざの A E に当てはまるものをア～カの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 桃栗三年 A 八年
(2) あつものにこりて B を吹く
(3) 濡れ手で C
(4) D に塩
(5) E にくぎ

【ア あおな イ あわ ウ ぬか エ かき オ みそ カ なます】

四 次の□部の漢字が例文A～Eと同じ意味で用いられているものをア～エから選び、記号で答えなさい。

A 会社には所属している部□がいる。

ア 地□には資源が眠っている。

ウ 県□には多くの市町村がある。

イ そろそろ□校する時刻だ。

エ 風□にけむりは流れていく。

B □合を入れて試合に臨む。

ア 高原の空□は心地良い。

ウ □圧がだんだん低くなる。

イ どうぞお元□でいてください

エ 水は液体だが、固体や□体にもなる。

C □家にネコが住みついている。

ア はるかな大□を見上げる。

ウ □席を見つけて座る。

イ それは架□□の物語だ。

エ 彼の話は□論に過ぎない。

D みんなの意□を参考にする。

ア あの人とは□解が異なる。

ウ 首相が臨時の会□を開く。

イ イベントの□物に出かける。

エ それを発□したのは私だ。

E 難破船には□貨や財宝が積み込まれていた。

ア どんな□額でも気にしない。

ウ 夜店で□魚すくいをやる。

イ バッグの□具が取れてしまった。

エ 純□で作られた王様の像。

